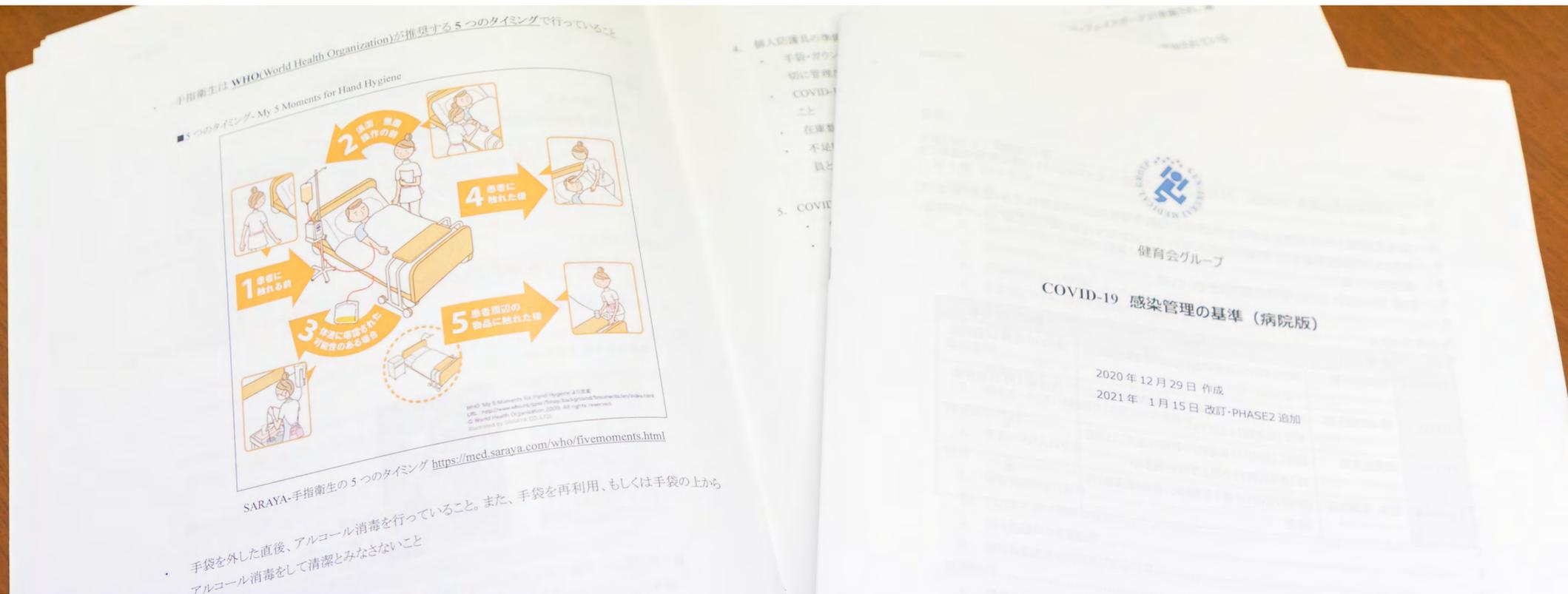


COVID-19（新型コロナウイルス感染症）等の 感染予防についての現況報告

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



2020年1月に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）国内初の感染者が出て、約1年。健育会グループでは、今後の感染拡大に向けてあらためて対策を講じました。ねりま健育会病院のクラスター発生によって苦境に立たされましたが、その経験をも教訓に、より現場に即した対応を行っています。今回は現状の報告を中心に、長期にわたる「感染の嵐」を見越した取り組みをお伝えします。

新型コロナウイルス感染症の第1波～2波において、健育会グループでは集団感染もなく、2020年11月まで乗り越えることができ、業績も順調でした。

11月27日には、各病院のメディカルディレクター（院長）やマネージングディレクター、施設管理者を対象にしたオンライン会議を実施。12月から予想される第3波を鑑み、「感染対策を第一」に考え、感染並びにクラスターの発生を抑えるよう伝えました。予算目標は二の次です。



まず、本部に「感染対策チーム」を創設しました。メンバーは、宇都宮副理事長（医師）、渡部クライアント本部部長、森クオリティマネージャー（看護師）、勝俣マネージャー。チームの目的は各病院・施設に出向き、既存の感染対策マニュアルを確認した上で、実際に正しく行われているかどうかをチェックすることです。2021年1月上旬にかけ、全施設を巡回してマニュアルの修正と、対応不備な箇所の指導にあたりました。



同時に、各病院の防護服等の物資や検査キットは本部で情報管理し、足りないものについては余っている施設から送るなど「万全な感染対策の体制」を構築しました。

皮肉にも、私が指示を出した翌日にねりま健育会病院で3名の新型コロナウイルス感染者が出ました。その後感染は拡大しクラスターが形成され、最終的には、入院患者さん・職員合わせて102名の感染者を出す大規模クラスターが発生してしまいました。



練馬区保健所と東京都の指導を受けながら、本部感染対策チームも介入して懸命にクラスター対策を行い、2021年1月14日に無事終息宣言、現在は通常業務に戻っています。また石川島記念病院を始めとするその他の病院で入院患者・職員における散発感染が発生しましたが、いずれもクラスターが発生することなく対応できました。



終息宣言を迎えたのち、1月18日に石川島記念病院、翌19日にはねりま健育会病院を感染対策チームとともに私も訪問して、病棟ラウンドを行いました。



石川島記念病院では、陽性者は出ましたがクラスターを未然に防いでくれたことへのねぎらいを伝えるとともに、今後の心得をお話ししました。

陽性者は出ましたが、クラスターの発生を未然に防いだことは頑張ったと評価します。今後1年は同じ社会情勢が続くと思うので、今回のことを教訓にさせていただきたい。患者さんは事前に検査してウイルス感染をチェックできますが、職員は知らない間に持ち込むケースがあります。また、最初の検査で陰性であった患者さんが数日後に陽性になり、慌てて隔離した例もありましたので油断はできません。「早期発見、早期隔離、すばやい対応」を今後も徹底してください。



一方、ねりま健育会病院では、大規模クラスター終息への活動のねぎらいに加え、本来の病院機能の復興とそのスピードの重要性など、これからみなさんに期待することをお伝えしました。

大規模クラスターを終息することができ、本当にお疲れさまでした。みなさんがONE TEAMとなって対応にあたってくれた結果、いいチームワークとなったことが終息に繋がったと思います。

まだ休んでいる職員もいると聞いています。チームワークに早く溶け込むよう、みなさんで声をかけながら新しいチームを再開してください。クラスターで影響を与えた患者さんを始め、これから入院してくる患者さん、ご家族、社会に、ご迷惑をおかけした分、みなさんの頑張りに期待します。

クラスターを起こした結果、収益的にもグループ全体では非常に厳しい状況となりましたが、他の病院も力を尽くしてくれました。これからも感染対策を十分にしながら、なるべく早くフル稼働できるよう、法人全体で安定した経営状況になるようお願いします。

また、12月末までにはすべての病院において、迅速に13分でコロナウイルスに感染しているかを判定できるSARS-CoV-2(新型コロナウイルス)核酸検出「ID NOW（アイディーナウ）」を導入しました。PCR検査とは違うものですが、核酸を増幅させてDNAでどのような感染があるかを見つける検査法で、原理は同じものです。厚生労働省でもPCRと同等の効果があるとされ、保険も認められています。

これによって、すべての新規入院患者さんの感染の有無、及び疑わしい職員・患者さんのチェックを迅速に行うことができるようになりました。現在は、全病院に「感染対策室」を設置し、陰性であることを確認した上、病棟で経過観察をしてからリハビリを開始しています。

これまで、発熱外来では再診者しか対応できていませんでしたがID NOW導入以降は、発熱のあるすべての患者さんを対象に受け入れて検査しています。

さらに現在は、他院で感染が確認された患者さんでコロナの治療が終わり、感染力がなくなると判断されてもリハビリが必要で自宅に帰れない方は、すべての病院で受け入れています。決断には、ねりま健育会病院でのクラスターの経験がありました。当時、感染力がない患者さんをグループ内の病院で受け入れましたが、その結果、ケアしながらであれば過剰に心配することはない。経験から得た証拠があったのです。

現在はすべての病院・施設でほぼ通常通りの入院外来、リハビリテーションの業務を行うことができている状況です。しかし、今後もこの新型コロナウイルス感染の嵐が続くことが予測されます。それぞれの病院・施設にあったマニュアルを修正しながら、健育会グループ統一として整備します。

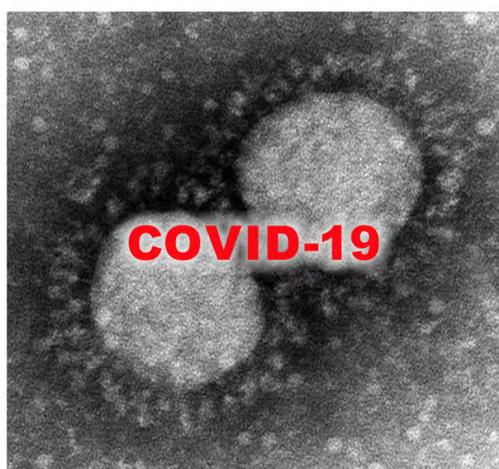


その上で「しっかり基準に則って対応できているか」を、感染対策チームが定期的に現場でチェックしながら、長期に及ぶであろう新型コロナウイルス感染症を乗り切っていきたいと思います。



年頭所感（vol.224）でもお話ししましたが、過剰に反応すると人は集中力が持ちません。長期間、続く覚悟をもっていただき、併せて私どもも職員の集中力が途切れないようグループを上げて工夫をしていきます。

コロナを感染予防することはもちろんですが、日々頑張ってくれている職員は感染が防ぎにくい状況も否認ません。予防に加え「早期発見、すばやい対処」のキャッチフレーズを、各病院・施設に掲示して徹底させていきたいと思っています。



予防はもちろん

**早期発見、
すばやい対処**

We are One Team!

全集中で、結束して乗り越えよう！
皆の力が必要です。